

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点1「従来から取り組んできて、効果を出している取組」

|             | 1 戸田第一小学校  | 2 戸田第二小学校   | 3 新曽小学校   | 4 美谷本小学校   | 5 笹目小学校   | 6 戸田東小学校   | 7 戸田南小学校   | 8 喜沢小学校  | 9 笹目東小学校   | 10 新曽北小学校  | 11 美女木小学校   | 12 芦原小学校  |
|-------------|--|---|---|--|---|--|--|--|--|--|---|---|
| 小4<br>県67.2 | 算数的活動(特に思考したことを表現したり、説明したりする活動)に重点を置いてきた。<br>自力解決から、自分の考えを友達と共有し深めること、話し合いの中で考えを表現する機会を意図的に増やし、理解を深めることを重視してきた。<br>振り返り活動を必ず取り入れた。 | ◎本校は多くの領域・観点で県・市の平均を上回っている。そこでこれまでに取り組んできた以下の取組を維持・継続していく。(全校共通の指導(授業)体制の確立)<br>①学び合いの手法を取り入れた授業づくり<br>・独自の授業スタイル                   | 低学年の頃から問題解決型の授業で、自分の考えを書いたり発表したりすることを積み重ねてきたことが学力向上に繋がっている。 | 算数的活動を多く取り入れることにより、量や数値を体感できるようにしている。  | 校内研修で取り組んできた授業のユニバーサルデザイン化を具体化した取組や、業前での「算数タイム」などの取組で、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。 | 本校は「数量関係」については、県・市正答率とほぼ同値である。本校は、朝学習でコツコツタイムに取り組み、弱点補強を含め、基礎的・基本的な能力の定着を図っている効果であると考える。                   | 計算や作図に関するドリルやプリントを利用した反復学習。<br>日常から三角定規やコンパスを使っての作業を多く取り入れている。                                     | ドリル等繰り返しの学習をしているので、計算問題などの技能は身に付いてきている。習熟については授業の他に家庭学習でも取り組んでいる。      | 本校では、「図形」「数量関係」が県平均を上回っている。これは、少人数指導を活用した個別指導や「漢字・計算タイム」や家庭学習でのドリルやプリントを活用した繰り返し学習の効果であると考えられる。        | 子供同士による学び合い活動を充実させる。                               | 毎日の宿題プリントでこれまでの復習を行ってきたため、理解の定着を図ることができた。週に一度ある算数のパワーアップタイムで個々の支援ができた。校内研修で3年間取り組んできた問題解決の型ができあがり、児童が混乱せず学習できている。 | 金曜日の「算数・スキルタイム」を2年前から全校で取り組んできているので、算数の基礎的内容が身に付いてきていると考える。また、学校課題研修で「量と測定」の単元を各学年で研修し、算数的活動を重視した学習活動を取り入れてきたことで理解が深まっていると考える。                |
| 小5<br>県66.5 | 算数的活動(特に思考したことを表現したり、説明したりする活動)に重点を置いてきた。<br>自力解決から、自分の考えを友達と共有し深めること、話し合いの中で考えを表現する機会を意図的に増やし、理解を深めることを重視してきた。<br>振り返り活動を必ず取り入れた。 | ル及び授業規律の共通理解・共通指導<br>・思考を共有する<br>コーディネート発問例の活用<br>・ノート指導の共通理解<br>②朝学習の活用<br>・曜日毎の国語・算数・話し合い<br>・少人数指導教諭の活用<br>③学習環境の整備<br>・知識事項(特に公 | 低学年の頃から問題解決型の授業で、自分の考えを書いたり発表したりすることを積み重ねてきたことが学力向上に繋がっている。 | 数と計算についての技能については、比較的高い正答率となっている。これは、毎週設定されている業前の学習時間を繰り返し行った成果であると考えられる。   | 繰り返し同じ形の問題を解いたり、家庭学習の習慣化を図ってきたため、基礎的・基本的な内容の定着は図れていると考える。                     | 本校は「数学的な考え方」については、県・市正答率を上回っている。これは算数リレー(学習した内容まとめ、児童主体で学習する活動)に取り組むことにより自分の考え方を相手に伝えることができるようになったためだと考える。 | デジタル教科書や具体物を使って操作できる教具が充実しているため、全体的に正答率が高いと思われる。<br>ドリル等を使い計算練習を反復して行っている取組により、計算力の定着が図られていると思われる。 | 算数タイム(朝学習)で基本的な問題に繰り返し取り組んでいる。技能の項目において、県・市正答率との開きが小さかったのはこの成果だと考える。   | 中学年より少人数指導を活用して、個別指導を充実させた。また、プリント学習を用いた繰り返し学習を行ってきた。県平均は下回っているものの、大きな開きは見られなかったのは、これらの実践の結果であると考えられる。 | 課題の提示、まとめ、ふりかえり、見直しをもった授業の流れを定着させる。                | 3年間積み上げてきた問題解決型での授業の進め方やノート指導、宿題プリントの工夫がよい結果を生んだと考えられる。   | 金曜日の「算数・スキルタイム」を2年前から全校で計算などの反復学習に取り組んできているので、算数の基礎が身に付いてきていると考える。また、学校課題研修で、「量と測定」の単元を各学年で研修し、算数的活動を重視した課題解決型の学習活動を取り入れてきたことで、理解が深まっていると考える。 |
| 小6<br>県59.3 | 算数的活動(特に思考したことを表現したり、説明したりする活動)に重点を置いてきた。<br>自力解決から、自分の考えを友達と共有し深めること、話し合いの中で考えを表現する機会を意図的に増やし、理解を深めることを重視してきた。<br>振り返り活動を必ず取り入れた。 | 式や図形の性質に関わるもの)の段階揭示<br>・ユニバーサルデザインに基づく学級経営(授業・教室環境)   | 低学年の頃から問題解決型の授業で、自分の考えを書いたり発表したりすることを積み重ねてきたことが学力向上に繋がっている。 | 本校は「数と計算」については、県・市正答率とほぼ同値である。これは、算数の毎授業5分間の「数感覚育成プログラム」の実施の効果だと考える。また、各学期末に、「学校検定」を実施し、学習内容を定期的に振り返る取組を行っている効果ができていると考える。 | 授業におけるユニバーサルデザイン化に取り組む、合理的な配慮をしながら、シンプルな授業づくりをしてきたことで、理解できる児童が増えてきた。          | 本校は「図形」については、県と市の正答率を上回っている。これは、課題解決学習の中で個人の考えから、他の友達の考えとの共通点や違いについて気づく学習に取り組んできたためだと思われる。                 | 多様な視点から考えを出し合い、説明し合う。<br>本時の課題を明確にし、その時間で何を身に着けるのか、児童が意識して取り組めるようにしている。                            | 本校は「技能」については、県・市正答率を上回っている。これは、算数タイムや家庭学習を利用し、計算問題に継続的に取り組んでいる効果だと考える。 | 計算問題においては、県・市の正答率に大きな開きが見られない。(一部では上回っている項目もある)これは朝学習の「漢字計算タイム」の効果だと考える。                               | 少人数指導を習熟度別に単元毎に取り組んでいる。<br>少人数グループによる話し合い活動を充実させる。 | 毎週月・木曜にパワーアップタイムに取り組んだことにより、すべての領域及び観点において県及び市正答率を上回ったと考える。   | 金曜日の「算数・スキルタイム」を2年前から全校で取り組んできているので、算数の基礎的内容が身に付いてきていると考える。また、学校課題研修で「量と測定」の単元を各学年で研修し、算数的活動を重視した学習活動を取り入れてきたことで理解が深まっていると考える。                |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点1「従来から取り組んできて、効果を出している取組」

|             | 13 戸田中学校  | 14 戸田東中学校   | 15 美笹中学校                               | 16 喜沢中学校   | 17 新曽中学校  | 18 笹目中学校                               |
|-------------|---|---|--|--|---|--|
| 中1<br>県58.1 | 本校は「数と計算」については県・市正答率を大きく上回っている。これは、授業開始時の計算トレーニングに取り組んでいる効果だと考える。 | 授業規律や授業ルールに関する指導を行い、授業に対する姿勢ができてきた。               | 宿題を設定する。<br>放課後補習を実施する。<br>確認テストを実施する。 | 本校は「数量や図形についての知識・理解」については県・市正答率を大きく上回っている。それは、繰り返しの徹底の効果だと考える。 | 特になし。   | 協調学習による話し合い活動を行う。<br>生徒の主体的な話し合い活動を行う。 |
| 中2<br>県49.5 | 1学年から、授業の初めに小テストに取り組んでいる。   | 授業開始直後の計算の小テストを実施する。<br>また、百題テストの実施により基礎学力の定着を図る。 | 週末課題に取り組ませる。<br>確認テストを行う。<br>宿題を設定する。  | 発展的な問題に粘り強く取り組ませたり、グループ活動に取り組ませたりした。                           | 基礎的・基本的な力を養うための小テストに取り組んでいる。                        | 教え合い活動、ノート指導の徹底が一定の効果を出している。           |
| 中3<br>県47.1 | 全体を通して、市・県と比べて高得点である。これは授業のはじめに取り組んでいるミニプリントで確実に基礎が定着している効果だと考える。 | 授業中の小テスト（5分間テスト）を実施する。<br>基礎的・基本的な知識及び技能定着の徹底を図る。 | 週末課題に取り組ませる。<br>確認テストを行う。<br>宿題を設定する。  | 数学のワークを定期的に提出させ、家庭学習の習慣を付けさせている。<br>授業の始まりの小テストを実施している。        | 結果を見ると、特にないと思われる。基礎的・基本的な知識及び技能の定着に特化した取組が必要と考えられる。 | 毎日の確認テストや日々の授業（特に協調学習）の取組も効果があったと感じる。  |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点2 「『新しい学び』として取り組みたい / 取り組む予定の方法」

|             | 1 戸田第一小学校   | 2 戸田第二小学校   | 3 新曽小学校  | 4 美谷本小学校   | 5 笹目小学校  | 6 戸田東小学校  | 7 戸田南小学校   | 8 喜沢小学校  | 9 笹目東小学校  | 10 新曽北小学校                                      | 11 美女木小学校  | 12 芦原小学校   |
|-------------|---|---|--|--|--|---|--|--|---|--|--|--|
| 小4<br>県67.2 | ベネッセコーポレーションとの連携を生かし、ICTを活用した授業をすすめていく。また青山学院大学との連携を生かし、専門家による指導法に関する講演を企画する。 | ○アクティブ・ラーニングの理論に基づく授業づくり<br>・協調学習（知識構成型ジグソー法による）の手法を取り入れた授業研究<br>・アクティブ・ラーニングに対する理論研究 | 算数的活動の楽しさや、数理的な処理の良さに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育成するためにアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を行う。 | 特に「数量関係」「数学的な考え方」において、ICT機器や教具の活用により、課題への興味関心を高め、さらにグループ活動を取り入れ、学び合いながら学習に取り組むことができるアクティブ・ラーニングを実施する。                            | 引き続き、学力の土台となる基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るために、算数科における「授業のスタンダード基本構成」を作成し、全学年で実施していく。また、「板書の基本形」をマイナーチェンジし、学びや思考の流れが一目でわかるよう改善する。さらに、授業内での自分の意見を話したり書いたりする活動、グループで問題解決をしたり、学び合ったりするアクティブ・ラーニングの考え方を取り入れ、一段階レベルを上げた授業改善の取組を行う予定である。        | 思考力・判断力・表現力を育むために、言語活動の充実を図る。そのために「練り上げ」では、ペア学習で、自分の考えとの相違点について、発表マニュアルを元に、意見をもてるようにする。また、「だ・い・は・か・せ」の掲示をすることで、観点を明確にし、話し合いができるようにしていく。   | 応用としての「考え方」の力を伸ばす必要がある。そのために、多様な考え方を引き出す授業展開を工夫したい。具体的には、友達と考え方を交流することで他のよさを発見し、自分の解法に生かせるような協同学習の場面を多く取り入れることである。拡大投影機で児童のノートを写し出し発表させることで、全体で個人のよい考え方を共有するなどICT機器を活用した取組も積極的にやっていく。一方、著しく基礎的な技能が身に付いていない児童もいるので、習熟度別学習などを取り入れ、個に対応した授業展開も工夫する。 | ・問題解決学習において、問題と課題を明確に示し、自ら進んで考え、課題を解決していく学習を推進する。<br>・展開後半の練り上げ（話し合い活動）において、話し合う視点を明確にし、比較統合一般化の道筋を見える化するとともに、個々の学びを深めていく。                       | 算数においても、自分の考えを証明することに困難を感じる児童が多く、今回の結果にも表れている。そこで、アクティブ・ラーニングを取り入れることにより、自分の考えをもとに話し合い、学力の定着を図る。また、eライブラリを積極的に活用し、単元学習後の内容の定着を図る。 | 少人数による話し合い活動をさらに進め、自分の考えを相手に伝える練習をする。          | 作図と数直線に課題があるので、授業を通して力を付けさせる。課題設定から始まる探究の過程を重視した授業を展開する。                 | 「図形」について「ミライシード」を活用し、視覚的にうったえる授業を行い、児童の理解を深めていく。解法について、グループ学習を取り入れる。（ICTのさらなる活用） |
| 小5<br>県66.5 | ベネッセコーポレーションとの連携を生かし、ICTを活用した授業をすすめていく。また青山学院大学との連携を生かし、専門家による指導法に関する講演を企画する。 | ○アクティブ・ラーニングの理論に基づく授業づくり<br>・協調学習（知識構成型ジグソー法による）の手法を取り入れた授業研究<br>・アクティブ・ラーニングに対する理論研究 | 算数的活動の楽しさや、数理的な処理の良さに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育成するためにアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を行う。 | 観点別評価「数学的な考え方」においては、互いの考えを共有し、自分の考えを表現することで、筋道を立てて考えを進めたり、よりよい考えを作ったりすることができる。そこで、アクティブ・ラーニングを取り入れ、児童が主体的に考えを深めることができる授業を構成していく。 | 本校の児童の実態からみると、今回の結果は良好であったため、このレベルを維持・向上させるために、学校の取組の再確認を行い、復習から授業に入ることを徹底すること、1授業のめあてを必ず板書し、児童へ明確に提示することで、指導内容の定着をさらに深めさせていく。また、既習事項を生かして、問題解決ができるような、グループ活動や学び合いの活動を積極的に取り入れるため、「シェア」の充実を図り、自分の考えを説明したり発表したりする活動を新規に取り入れていく。 | 思考力・判断力・表現力を育むために、言語活動の充実を図る。そのために「練り上げ」では、3～4人のグループ学習で、自分の考えとの相違点について、意見もち、発表できるようにする。また、「量と測定」に関して、数量感覚を身に付けるために、体験的な活動を積極的に取り入れていく。  | 数学的な考え方について課題があるので、1時間の授業において一人一人の児童に「解き方を考える場面と時間」、「解き方を表現する場面」を確保していきたい。その際、協調学習を取り入れ、共通点や相違点を見つけてながら考えを深めていく活動を体験させる。自分の考え方や解き方を整理して友だちに伝える活動に取り組むことで数学的な思考力の育成を図る。実験的に1つの学級で取り組んだところ従来よりも児童が主体的に考え意見交換が活発になったことから成果が期待できると考える。               | 考える力を身につけるためには児童のアウトプットの機会を意図的に増やす必要がある。そのために、授業においてはベネッセ「ミライシード」を活用した話し合い活動を取り入れる。<br>・大学生ボランティアの活用による習熟の時間を確保することにより、一層の知識・理解、技能の定着がはかれると考える。  | 「eライブラリ」の活用を行い、朝の学習などで内容を精選したプリント教材を実施し、知識の確実な定着を図る。また、協働的な学び、アクティブ・ラーニングを用いた授業に取り組み、それらの活動の中で「ミライシード」等を取り入れ、授業展開を工夫していく。         | 少人数による話し合い活動を取り入れる。<br>主体的な学び、自分の考えを伝える力を育成する。 | 「数学的な考え方」や思考力を高めることに特化した学習を進める。習熟度別の少人数指導を年間を通して行う。                      | ・教科や単元の特性に応じて、効果的にICTや協調学習を取り入れる。  |
| 小6<br>県59.3 | ベネッセコーポレーションとの連携を生かし、ICTを活用した授業をすすめていく。また青山学院大学との連携を生かし、専門家による指導法に関する講演を企画する。 | ○アクティブ・ラーニングの理論に基づく授業づくり<br>・協調学習（知識構成型ジグソー法による）の手法を取り入れた授業研究<br>・アクティブ・ラーニングに対する理論研究 | 算数的活動の楽しさや、数理的な処理の良さに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育成するためにアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を行う。 | 「図形」「数量関係」の単元に、意欲的に取り組ませることが重要だと考える。そのために、「図形」単元「拡大図と縮図」、「数量関係」単元「比例と反比例」において、グループ活動を取り入れ、学び合いながら学習に取り組むことができるアクティブ・ラーニングを実施する。  | 授業中での「シェア」の活動を増やし、友達の考えを聞くことで自分の意見に自信をもたせたり、他者の意見を聞いて考えの幅を広げたりする活動を充実させる。  | 思考力・判断力・表現力を育むために、言語活動の充実を図る。そのために「練り上げ」では、3～4人のグループ学習で、自分の考えとの相違点について、意見もち、全体の前でも、友達が分かるように発表できるようにする。また、「量と測定」に関して、日常生活において、いくつかのものを比較するためには、単位量当たりの大きさを利用すると判断・処理しやすいことを実感させ、数量感覚を身につけさせる。 | ・ICTの効果的活用を目指しつつ、指導内容に合わせて具体物を使った指導も取り入れている。<br>・アクティブ・ラーニングの考え方を生かして活発な意見交換をさせ、数学的な考え方の向上につなげる。   | 算数科においても、自ら課題を見つけ、自ら解決する「問題解決型学習」を積極的に実施する。<br>問題解決型学習の後半、練り上げの場面で、グループ活動を更に充実させ、知の共有化を図る授業展開を進める。<br>ベネッセ「ミライシード」の活用により、自己解決と練り上げの話し合い活動の充実を図る。 | ベネッセ「ミライシード」を児童の発達段階にあわせ有効活用し、協働的問題解決力と数学的思考の育成を目指す。  | 少人数による話し合い活動を取り入れた、一人一人の学ぶ力を引き出す主体的な学習を行いたい。   | 分析をもとに、児童に課題が見られる分野について、重点的にパワーアップタイムで取り組み、知識の定着を図る。習熟度別の少人数指導を年間を通して行う。 | イメージしにくい図形や数量の部分をデジタル教科書等のICTを使うことで「見える化」をし、図形に関する感覚や数量に関する感覚を養いたい。              |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点2 「『新しい学び』として取り組みたい / 取り組む予定の方法」

|             | 13 戸田中学校  | 14 戸田東中学校  | 15 美笹中学校                                       | 16 喜沢中学校  | 17 新曽中学校  | 18 笹目中学校  |
|-------------|---|--|--|---|---|---|
| 中1<br>県58.1 | 「数学的な考え方」に関して、道筋をたてて考え、自分の考えを表現する活動を充実させることが重要だと捉える。そのために数学の授業においては、自分の考えを発表する場を多く作り、他の考えを聞き、新たな発見をするために協調学習を取り入れる。 | メタ認知的視点から言語活動を積極的に取り入れる。<br>ノートに計算方法や家庭を記述させ、周りに伝える活動を取り入れ、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図るだけでなく、数学的な思考力・表現力も併せて育成していきたい。また、アクティブ・ラーニングを取り入れ、生徒主体の授業を構成し、学習意欲の向上を図る。 | 言語活動の充実のために、協調学習を取り入れる。<br>ICTを活用して発表する機会をつくる。 | 「数学的な考え方」に関しては、言語活動を充実させることが重要だと捉える。そのために数学の授業においては、思考を活性化させるために強調学習を中心としたとアクティブ・ラーニングを積極的に取り入れる。また、スモールティーチャーを生徒の中から作り出し、生徒同士で教え合いを行わせる。その中で、「問題を解くことができる生徒」を「問題の解き方を理解している生徒」に成長していく。 | 図形領域に対する課題から、2学期後半から入る平面図形、空間図形に向かって、小学生時の学習を復習する機会を設けたい。また、模型を用いることで、視覚的に捉えていけるようにしたい。 | ゲームニクス理論に基づく授業展開を推進する。  |
| 中2<br>県49.5 | 既習事項を活用し問題を解決する力をつけることが、1の課題を解決すると考えられる。解決方法が複数ある課題を用意し、各自の力で解決できる見通しを持たせる。解決方法を交換する場を設定し、お互いに考えを刺激し発展させていく。        | 家庭学習を図れる環境として、e-ライブラリ活用を周知する。  | 言語活動の充実のために、協調学習を取り入れる。<br>ICTを活用して発表する機会をつくる。 | アクティブ・ラーニング（ジグソー法）は何度か取り入れたが、定期的に取り入れていく。<br>ICT機器を活用して、生徒の興味・関心を高める。   | 「全校計算コンテスト」を実施する。   | 協調学習の手法を取り組みたいと考えている。ジグソー活動、教え合い活動、学び合い活動など、今後授業の取り入れていきたい。                                       |
| 中3<br>県47.1 | 既習事項を活用し問題を解決する力をつけることが、1の課題を解決すると考えられる。解決方法が複数ある課題を用意し、各自の力で解決できる見通しを持たせる。解決方法を交換する場を設定し、お互いに考えを刺激し発展させていく。        | ICTの活用を図る。   | 言語活動の充実のために、協調学習を取り入れる。<br>ICTを活用して発表する機会をつくる。 | アクティブ・ラーニング（ジグソー法）は何度か取り入れたが、定期的に取り入れていく。<br>ICT機器を活用して、生徒の興味・関心を高める。   | 放課後の補習や計算力向上のための時間など基礎的・基本的な知識・技能の向上を図れる取組を今以上に考えていく必要がある。                              | 「数学的な見方や考え方」の正答率が低いことに関して、数学的な活動が少ないことが課題としてあげられる。数学的な活動の活性化や協調学習の手法を継続させて、アクティブ・ラーニングを取り入れていきたい。 |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点3 「『視点2』以外で、授業改善に関する取組」

|             | 1 戸田第一小学校  | 2 戸田第二小学校  | 3 新曽小学校  | 4 美谷本小学校   | 5 笹目小学校   | 6 戸田東小学校   | 7 戸田南小学校   | 8 喜沢小学校   | 9 笹目東小学校  | 10 新曽北小学校                | 11 美女木小学校   | 12 芦原小学校   |
|-------------|--|--|--|--|---|--|--|---|---|--------------------------|---|--|
| 小4<br>県67.2 | 習熟、活用のバランスの取れた単元計画を実施していく。<br>本校が設定したスタンダードにもとづき、引き続きより一層算数的活動を重視していく。 | ○朝学習の充実<br>・各学年の課題や一人一人の児童の課題に応じたプリント学習<br>○伝えることへの意欲の向上<br>・今年度より朝学習で取り組んでいるフリートークの継続及び深化 | 算数科では本校でも高い数値を示しているため、これを維持するために、少人数指導によりきめ細やかな指導で、さらなる学力の向上に努めたい。 | 授業時間内での、学習内容を定着させるための練習問題等への取組を、毎時間行えるようにしていく。   | 「板書」にリンクした「算数ノート」の基本形を作成し、色を使うことで視覚化したり、自分の考えを記入したりできるように児童へ提示していく予定である。  | かけ算九九の確実な定着のため、毎時間100ます計算に取り組む。授業のまとめでは、課題と正対させて、自分の力で、虫喰いで穴埋めして書くことができるようにする。                         | 「知識・理解」の面では、その時分かつてもすぐに忘れてしまう児童も多いので、繰り返し用語が目に触れられるような教室掲示を工夫していく。                       | ※授業の始めに必ず基礎的・基本的な復習問題を行う。<br>【スイッチタイム（仮称）（3分以内）】<br>問題は、前時の復習や既習事項にこだわらず、学年や学級の実態に応じたものにする。<br>・解を示し、その根拠を問うという「根拠追究型授業」にも取組み、数学的な思考を高める。 | 少人数指導教員と連携して教材研究を進め、効果的な形態・指導法を研究する。<br>また、数や量の感覚を理解させるため、実体験を伴った学習を多く取り入れる。  | 自ら解きたくなる、必然性のある問題の設定を図る。 | 協調学習を無理のない範囲で取り組んでいく。<br>授業の最後に学習したことを振り返る活動を必ず行う。                              | 問題解決的な学習（協調学習も含む）を中核として、その中でも算数的活動を重視するとともに、UDの視点を取り入れ、誰にでも分かりやすい授業を実践する。        |
| 小5<br>県66.5 | 習熟、活用のバランスの取れた単元計画を実施していく。<br>本校が設定したスタンダードにもとづき、引き続きより一層算数的活動を重視していく。 | ○朝学習の充実<br>・各学年の課題や一人一人の児童の課題に応じたプリント学習<br>○伝えることへの意欲の向上<br>・今年度より朝学習で取り組んでいるフリートークの継続及び深化 | 算数科では本校でも高い数値を示しているため、これを維持するために、少人数指導によりきめ細やかな指導で、さらなる学力の向上に努めたい。 | 面積の量感を問う問題においては正答率が0%であったため、量感が備わっていないことが考えられる。授業では、課題について数値を当てはめるだけでなく、どんな大きさなのか、重さなのかなどを問い、実感をもたせて課題に取り組んでいくようにする。 | 時間の授業の基本構成の見直しを行い、算数科における「授業スタンダード基本構成」を作成して、パターン化することで授業の見通しを持たせ、理解を深めさせる。また、基本構成に即した授業を全学年で取り組み、継続的な指導で定着を図る。 | 授業の導入時に、必ず5分程度分数、小数、四捨五入等の弱点補強時間を設定し、取り組み、基礎的・基本的技能の定着を図る。授業のまとめでは、課題と正対させて、自分の力で、書くことができるようにする。       | 数や数式の操作だけでは十分な理解や定着が図られないので、具体物を操作したり、学習したことを応用させたり、身近な生活と結び付けたりという算数的な活動を意図して取り組むようにする。 | ※授業の始めに必ず基礎的・基本的な復習問題を行う。<br>【スイッチタイム（仮称）（3分以内）】<br>問題は、前時の復習や既習事項にこだわらず、学年や学級の実態に応じたものにする。<br>・解を示し、その根拠を問うという「根拠追究型授業」にも取組み、数学的な思考を高める。 | 誰もがわかりやすい授業の展開を担任も少人数指導教員も共通認識をもって取り組めるように、見通しをもった単元ごとの授業の研究をおこなう。児童の基礎的・基本的な知識及び技能を定着させるためにドリル等の補充学習を授業で行い、確実な定着を図る。 | 理解を深めるため、教材教具を工夫する。      | 「思考させる」ことを意識し、見通しをもつことに重点を置いた指導を展開する。<br>課題設定から始まる探究の過程を重視した授業を展開する。            | 具体物を使った算数的活動の活動を重視する。<br>見通しと振り返りを大切にし、有用感をもたせる授業の実施を行う。コンパス・分度器・三角定規の継続的な使用を行う。 |
| 小6<br>県59.3 | 習熟、活用のバランスの取れた単元計画を実施していく。<br>本校が設定したスタンダードにもとづき、引き続きより一層算数的活動を重視していく。 | ○朝学習の充実<br>・各学年の課題や一人一人の児童の課題に応じたプリント学習<br>○伝えることへの意欲の向上<br>・今年度より朝学習で取り組んでいるフリートークの継続及び深化 | 少人数指導を行い、実態に即したきめ細やかな指導を行う。  | 「数と計算」領域は、比較的高い数値を示していた。毎授業5分間の「数感覚育成プログラム」や「100ます計算」が効果的であったので、今後も継続して実施し、知識の確実な定着を図る。                              | 復習を繰り返し行って、基礎的・基本的な内容の定着を図る。また、5問程度の小テストや発展問題を取り入れることで、意欲を高める機会を増やしていく。   | 授業の導入時に、必ず5分程度面積、分数、百分率・割合等の弱点補強時間を設定し、取り組み、基礎的・基本的技能の定着を図る。授業のまとめでは、課題と正対させて、自分の力で書き、更に学習感想を書けるようにする。 | 苦手な児童も楽しく積極的に授業に臨めるよう、ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、学習内容を焦点化した授業改善を行う。                              | ※授業の始めに必ず基礎・基本的な復習の問題を行う。【スイッチタイム（仮称）（3分以内）】<br>問題は、前時の復習や既習事項にこだわらず、学年や学級の実態に応じたものにする。<br>・問題解決学習において、解を導き出す前に、必ず解決の見通しをもたせてから取り組ませる。    | 基礎的・基本的な知識及び技能の定着を一層充実させるとともに、数学的な考え方を育むために①課題とじっくりと向き合わせ、思考を巡らせる時間を確保し、②課題の設定や発問を吟味していく。                             | 児童が主体的に取り組めるような発問を工夫する。  | 授業の中で正答率の低い項目について重点的に取り組むとともに、正答率の低い児童への個別支援を行う。<br>課題設定から始まる探究の過程を重視した授業を展開する。 | 具体物を操作する活動を多く取り入れたり、繰り返し問題を解く活動を多く取り入れたりとすることで、問題解決の手法を通して、学びを深めていく。             |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点3 「『視点2』以外で、授業改善に関する取組」

|             | 13 戸田中学校   | 14 戸田東中学校  | 15 美笹中学校                          | 16 喜沢中学校  | 17 新曽中学校  | 18 笹目中学校  |
|-------------|--|--|-----------------------------------|---|---|---|
| 中1<br>県58.1 | 今回の結果を維持するためにも、毎時間の計算トレーニングを実施し、確実な定着を図る。  | 基礎的・基本的な知識及び技能の定着のため、計算の演習や小テストを充実させ、アウトプットの機会を増やしていく。 | 知識理解の部分が低いので、確認テストを行ったあと、再試験等をする。 | 「数学的な技能」の数値が県平均正答率は大きく上回っているが、市平均正答率はそれほどでもない。「数量や図形についての知識・理解」の定着だけでなく、どの項目も上回るように取り組んでいく。 | 生徒達に答えだけでなく、何故そうなったのか、そうしたのかを考えさせ、説明させていきたい。      | 導入課題の工夫を考える。  |
| 中2<br>県49.5 | 用語の理解を繰り返し行う。  | 授業研究会に積極的に参加し、授業力向上を図りたい。                              | 生徒一人一人の習熟度を把握し、補習などの援助をしていく。      | 数学の良さを感じる授業を展開する。身近な題材を用いて、生活の中に隠れている数学を活用する。   | アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開する。<br>ICTを積極的な活用する。        | 授業を振り返る時間を作る必要があると感じている。週間、または月間でその週または月に学んだことを振り返る機会を積極的につくりたい。                                      |
| 中3<br>県47.1 | 授業の中で、話し合い活動を取り入れているが、細かいルールや、授業の展開などは決まっていない。話し合い活動の中で考える力などをよりよく身につけていくために、3年間を見通し、共通の指導を行える体制をつくっていきたい。 | 授業研究会に積極的に参加し、授業力向上を図りたい。                              | 基礎的・基本的な問題を確実に解ける力。               | 入試に向けて、問題演習を繰り返していく。  | 1・2年生の内容と絡めながら理解を促していく必要がある。復習を行う時間も場合によっては必要である。 | 学校の取組として、朝の5教科の10分学習を取り入れている。また、授業開始時の既習事項の確認をしっかりとやっていきたい。学期に1回の校内コンテスト(基礎的基本的な内容)を行っているので、継続していきたい。 |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点4「補充的指導として取り組みたい / 取り組む予定 / 強化したい事柄」

|             | 1 戸田第一小学校   | 2 戸田第二小学校                      | 3 新曽小学校   | 4 美谷本小学校   | 5 笹目小学校  | 6 戸田東小学校  | 7 戸田南小学校  | 8 喜沢小学校  | 9 笹目東小学校   | 10 新曽北小学校  | 11 美女木小学校  | 12 芦原小学校  |
|-------------|---|--------------------------------|---|--|--|---|---|--|--|--|--|---|
| 小4<br>県67.2 | 児童が苦手としている単元を分析し、毎週月曜日の朝に行っている「ひらめきタイム」において習熟の時間も設ける。 | ○基礎的な計算技能の習熟<br>・eライブラリを活用した習熟 | 県正答率や、市正答率を上回っていても、正答率が低い単位分数の比較や量感を問う問題などがある。これらについては、eライブラリや家庭学習コーナーを活用を促し、家庭と連携して主体的、意欲的な学習活動を充実させる。 | 文章題の内容を、文章に線を引くことによって正確に捉えさせ、図で表すことによって、内容解決を図れるようにしている。   | 今まで行ってきた「算数タイム」を改善し、苦手な児童へは今まで以上に学年を下げた復習を行わせ、得意な児童へは発展的な学習ができるよう、レベルに合わせた課題を選べるように複数作成していく。 | 本校の「とだっ子学習クラブ」への積極的な参加を促し、算数の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく。 | 「技能」に関しては、朝自習での補充プリント学習をしたり、「考え方」に関しては、授業中にも発展的な学習プリントを用意するなど理解力の高い児童の知的好奇心を大切にしたい取組をしたりしていく。 | とだっ子学習クラブとの連携をし、図形・分数・時計等未定着な内容を補充する。<br>既習問題を毎回行い、学習の定着を図る。<br>eライブラリを授業等で活用し、家庭での活用率を高める。  | 家庭学習の内容を研究し、前単元の内容が定着しているか、全学年の内容が定着しているかきめ細かく確認し、指導につなげていく。その際も少人数指導教員やわくわくT等に協力を依頼し、個別指導をしていきたい。               | 既習事項を定期的に学習課題として取り組む。  | 家庭学習の評価と指導の工夫を図る。<br>とだっ子学習クラブを活用し、基礎基本の定着を図る。         | 「数と計算」においては、自主学習での取組に力を入れる。授業においては、算数的活動を重視するなどして、楽しみながら取り組める教材の開発を行う。(図形をかくなど)さらに、家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の定着を図る。とだっ子学習教室への参加やeライブラリの活用を、学校だより・懇談会などを通して啓発する。 |
| 小5<br>県66.5 | 児童が苦手としている単元を分析し、毎週月曜日の朝に行っている「ひらめきタイム」において習熟の時間も設ける。 | ○基礎的な計算技能の習熟<br>・eライブラリを活用した習熟 | 県正答率や、市正答率を上回っていても、正答率が低い単位分数の比較や量感を問う問題などがある。これらについては、eライブラリや家庭学習コーナーを活用を促し、家庭と連携して主体的、意欲的な学習活動を充実させる。 | 数量についての技能が低いいため、業前の学習時間に四則混合の計算やグラフの読み取り等の問題に取り組ませる。   | 今まで行ってきた「算数タイム」を改善し、苦手な児童へは今まで以上に学年を下げた復習を行わせ、得意な児童へは発展的な学習ができるよう、レベルに合わせた課題を選べるように複数作成していく。 | 本校の「とだっ子学習クラブ」への積極的な参加を促し、算数の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく。 | 全体的に学力が高いという結果だが、個人差は大変大きいと実感している。底上げを図るために、授業のはじめにマス計算や復習などに3分間取り組み、基本的な力を強化したい。             | <small>担任や学年教員による放課後の補習により、全ての児童の学びを保障する手だてを講じる。<br/>とだっ子学習クラブとの連携をし、未定着な内容を補充する。<br/>eライブラリを授業等で活用し、家庭での活用率を高める。</small>              | 放課後の10分補習、とだっ子学習クラブを活用し、全ての児童に支援する手立てを講じる。   | 反復学習の時間を確保する。  | 算数のパワーアップタイムで正答率の低かった「計算の工夫」や「数量や図形についての技能」等の補充学習を進める。 | 家庭学習の手引きをもとに、家庭学習の定着を図る。とだっ子学習教室への参加やeライブラリの活用を、学校だより・懇談会などを通して啓発する。  |
| 小6<br>県59.3 | 児童が苦手としている単元を分析し、毎週月曜日の朝に行っている「ひらめきタイム」において習熟の時間も設ける。 | ○基礎的な計算技能の習熟<br>・eライブラリを活用した習熟 | とだっ子学習クラブ、eライブラリ、家庭学習コーナーを適切に活用できるようにし、家庭でも主体的、意欲的な学習活動の充実に努める。   | 家庭学習の習慣を身に付けさせるために、学校全体で取り組んでいるパワーアップカードの指導を徹底するとともに、家庭学習で取り組めるようなプリント学習をさせるための系統性を意識したプリントを用意し、自ら選択させ実施させる。 | 基礎的・基本的な内容の定着を図るために家庭学習の習慣を身に付けさせることや学習時間を増やすなど、家庭と連携しながら取り組んでいく。                            | 本校の「とだっ子学習クラブ」への積極的な参加を促し、算数の基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図っていく。 | 発展的学習として、知識の活用を目指した問題に数多く取り組ませる。<br>eライブラリの効果的活用。基礎基本の定着。発展問題への挑戦。<br>とだっ子学習クラブとの連携を図る。       | 数量や図形についての技能を定着させるために、継続的な取組を続ける。<br>文章問題の取組を充実させる。また、学習協力者による放課後の補習を行う。<br>とだっ子学習クラブとの連携をし、未定着な内容を補充する。<br>eライブラリを授業等で活用し家庭での活用率を高める。 | 担任だけでなく、少人数指導教員やわくわくティーチャーにも協力を依頼し、休み時間や放課後に補習を行い、個に応じた支援・指導を行う。その際、ICTを活用した内容に取り組んでいく。(パソコンを用いてeライブラリの積極的活用を図る) | 既習事項を定着させるためのドリル学習を行う。<br>毎日1枚取り組ませている家庭学習プリント(宿題)を実施する。<br>定着が遅れている児童に対する個別支援を行う。 | 課題で上げた分野に係る単元について意識して力がつくよう指導に取り組む。                    | 戸田市算数コンテストや戸田市算数フェスティバルの参加を促す。さらに、とだっ子学習教室への参加やeライブラリの活用を、学校だより・懇談会などを通して啓発する。また、金曜日のスキルタイムで、計算や図形などについての繰り返し学習を行い、技能を高めていく。                            |

# 平成27年度埼玉県学力・学習状況調査に係る分析報告書 まとめ

## 算数・数学編 視点4「補充的指導として取り組みたい / 取り組む予定 / 強化したい事柄」

|             | 13 戸田中学校  | 14 戸田東中学校  | 15 美笹中学校                                       | 16 喜沢中学校                | 17 新曽中学校   | 18 笹目中学校                                  |
|-------------|---|--|--|-------------------------|--|---|
| 中1<br>県58.1 | 長期休みに、計算練習の課題を取り組ませ、小テストを行うこと、また、定期テスト前の確認テストから、支援が必要な生徒に補習をこれからも続けていく。   | 個に応じた指導を充実させる。<br>机間指導をとおした、生徒一人ひとりの実態に応じた指導を行う。<br>放課後の補充指導を行う。 | 宿題の設定、放課後補習、確認テストの実施、学習に関する掲示物など今行っている取組を継続する。 | 数学が苦手な生徒への補習を行う。        | 学力の差が現れてきているので、放課後に補習を行いたい。自主的に参加しない生徒にも出るよう促していきたい。 | 単元テストの再テストの実施を行う。                         |
| 中2<br>県49.5 | ノートについては、1学年から指導している。振り返りに役立つノートになるように、助言をしていく。   | テスト前の補習を行う。<br>日頃からの声かけを行い、休み時間等積極的に問題を少しでも解けるよう取り組みさせる。         | 宿題の設定、放課後補習、確認テストの実施、学習に関する掲示物など今行っている取組を継続する。 | 中学校1年生で学習した内容の確認テストを行う。 | 学習室と連携しての放課後教室や計算プリントの配布など計算力の向上を図る取り組みをしていきたい。      | 基礎的な計算の小テストの実施とその間違い直しの指導を徹底し、技能の向上を図りたい。 |
| 中3<br>県47.1 | 授業のはじめのミニプリントの裏面には見方・考え方を伸ばす問題があるが、今までは基礎学力向上を重視していたため、裏面の解説にはあまり時間をかけていなかった。問題を精選して、解説の時間を取るようにしたい。合わせて、全国学力状況調査のB問題の過去問などに触れる機会も増やしていきたい。 | 家庭学習を充実させる。  | 宿題の設定、放課後補習、確認テストの実施、学習に関する掲示物など今行っている取組を継続する。 | 3学期に中学校3年間の既習事項の総確認。    | 学習室と連携しての放課後教室や計算プリントの配布など計算力の向上を図る取り組みをしていきたい。      | 3学年は部活動も引退しているので、放課後の時間を活用して補習などを行いたい。    |